



卷之三

ルモノヲ最下等トナラ錦ノ二尺四寸ナルモノヲ以テ  
最上等トス裝載ノ大砲ハ六頭半ノモノヲ以テ最小ト  
レ八十一頭ノモノヲ以テ最大トス進行ノ速力ハ九  
「ノット」<sup>一</sup>半(一時間ニ九海里半)ノモノヲ以テ最緩ト  
メ十五「ノット」<sup>一</sup>半ノモノヲ以テ最速トス而シテ其製  
造年月ノ如キ多クバ昔今ヨリ十年以内ニ在ルモノ  
ニシテ二十年ナ經タルモノハ三四艘ヲ除クノ外絕テ  
アルノ事ニ此ニ因テ之ヲ觀ルニ英國海軍ノ威名ヲ世  
界ニ播ニヌルニ著シ其理由ヲキニ非サルナリ(未完)

○井田佛國全權公使 同君は今回歸朝さるゝお付  
途次伊國へ回り本月下旬伊國を拔錨せらるゝ旨一  
日前大山陸軍卿の許へ報知ありたる由  
○諸將歸臺 陸軍省參謀本部の將官會議も最早閉會  
もありしゝ付仙台鐵台司令長官佐久間少將、大坂鐵  
臺司令長官山路少將、名古屋鐵臺司令長官邊野少將、  
廣島鐵臺司令長官野崎少將には何づれも本日より夫  
々歸臺せらるゝ旨昨日陸軍省へ届出られし

○轉任 塚江大佐タ少將より昇任され  
せられしに付其後任とある黒木歩兵  
管東局長を命ぜられ又同部海防局島  
ふ轉任され工兵會議長を命ぜられし  
○警察費不足 各地方警察費の内國  
分の毎年不足を生し既に十五年度と  
生せし府縣少からざるに付右等の府  
申の儀も有之旨と山田内務卿より内  
しよ付目下内閣に於ては右處分ふ開

○御親鸞 徒來 壬上の御座所に在らせらるゝ節政  
事上の儀に付奏上せらるゝ事あるときハ 皇族大臣

○小幡鶴次郎君 交詢社幹事小幡鶴次郎君にハ本日  
横濱解纜の三菱郵船玄海丸にて舊里豐前國中津ヘ

○陸軍少尉試補 従來陸軍少尉試補

しへ自今ハ右表上の都度御學同所或ハ梅ノ御間へ出  
御書がせら御事聞し召さるゝ旨此程御妙法なりし  
に承る

○故深澤勝興君 横濱正金銀行の取締役として同銀行の神戸支店支配人ありし深澤勝興君より過日來腸窒扶斯病に罹られ横濱十全病院にて療養せらるたるも其効あく去る一日に物故されより昨六日葬儀を挙ま  
れ午後一時東京増上寺より出棺青山墓地より靈廟導師  
は福田大牧正より御供ひて、兵庫大藏門、菱臺を

○衛生諮詢會 同會ハ華族會館に於  
昨日の紙上ふ掲げしダ右ハ誤聞ふて  
より日々退出後午后四時より各課長が  
會議を開かるるに付毎夜退散は午后  
○驛遞局 江戸橋四日市驛遞本局に

○紀元前來る十一日紀元節に付華族の方々おは  
午前十時より參賀の上宮中華族局於て例に依り  
祝酒を賜ふといふ又同日正午十二時陸軍にてハ日比  
谷練兵場みて海軍にては横濱東海練習府の常備隊お  
於て各百一發の祝砲を打發するといふ

事院議官、楠本元老院議官、渡邊（清）元老院議官、島岩手縣令、日本銀行ハ吉原重俊、喜田鎮之助、岩崎參事院議官補等の諸氏をはじめ正金銀行よりハ頭取白洲選議、副頭取小泉信吉等ハ議院にて其外明野の紳士凡三百餘名實に盛ある議論ありし又深澤君の履歴

○出張旅費　工部省みて鑛山開鑿同  
習等に爲め都て人民より其主務官出  
る職官更出張の旅費は其請求に府駅  
或ひは局費を以て派出致させ候哉夫  
付今般御省より農商務省へ問合さる

正四曾根與千種任子とのよ  
山口市立美術所ふ於て執り行へる、  
と見えどいふ

○ケールツ氏 内務省衛生局御雇英人ケールツ氏は  
は裏々各地の温泉性質を試験の爲め出張中なつしき  
昨今用試験を擧られしと以て来る十五六日頃湯京の

所等設置同器械買入其他とも府縣より  
頼む節は即ち其府縣より官吏該處に  
向る有之を以て當て事に因る事も

宮代御殿を宙曲御所内に起築せらるゝと定め、これ來る三十日より土木の功を起し百日間を以て落成の御都合あれ。掛管<sup>カミ</sup>一層勉強。

官一昨日同氏より内務省衛生局へ届出されたり  
Q. ガンベック氏の脳體、頭腦は才能の在る所とて脳  
體の多少は才人の賢愚に關するとして古來名家解説

を以て猪工部省へ迴答せられしと  
○北海道事業管理局 是迄海關廳其  
業上の事務は農商務省農務局又て而

○有栖川宮 同宮ふは從來西園への御出頭多かども  
も今 御出頭あるべき曾大山藤草卿

體を握りしこと屬ありし夕生年は男子は多きも六十七  
五チソスとせでを少くも「二十四チソスより降らぞ又生  
年の女童は五十六チソスより至三十一チソスなど妻い

○山形縣同 先般戸長身分取扱改正  
案は上審議後し察々候者も請來審議

通をさるゝありを云ふ  
五日は九段坂ある偕行社にて紀年會

の脳髄を拔き取り或る醫學會社へ送り之を渝せしよ  
莫智力僅かふ一千百グラム即チ三十九ツヤソ大弱なり

○山形縣より内務省へ伺出られしし  
○事務巡回擲文部省ふでに今度各  
之名皆同相承候るべく

を御出奔、翌明臺へ移候題を  
請し、  
始て將校士卒三百餘名參會する所、威  
武と仰がれる」といふ。

○鳴廻 本社々岡高木喜一郎森下岩楠の両人は社用  
の爲め畿内及び紀伊地方へ向け本日横濱解纜の三葉  
號船にて、御乗合を右の件等以て難波地方に交詢

○大日本租税誌 大藏省租税局にて

○山縣參議 山縣參事院議長  
支那の事は、未だわかれよ。熊本へ去る所を知り、  
國を經て三河筑前へ赴かる。よし

社員を訪問する者あり又本社を御波多野木五郎<sup>ハシタケル</sup>よりの招聘<sup>ハセイ</sup>に應し本日午後當地を訪して正使  
此處<sup>ハシタケル</sup>新川へ参ぐ等なり

二月廿一號